

# 青年海外協力隊は何をもたらしたか 開発協力とグローバル人材育成50年の成果

## 出版セミナー

\*\*\* 本書の紹介 \*\*\*

岡部恭宜

東北大学法学部／JICA研究所  
2018年6月25日 JICA研究所

# 青年海外協力隊は 何をもたらしたか

開発協力とグローバル人材育成50年の成果

岡部 恭宜 [編著]



Japan Overseas Cooperation Volunteers

ミネルヴァ書房

# 青年海外協力隊は 何をもたらしたか

開発協力とグローバル人材育成50年の成果

岡部 恭宜 [編著]



途上国のために、日本のために —

歴史ある代表的「国民参加型ODA」の実態を、  
様々な学問的アプローチにより総合的に分析。

ミネルヴァ書房

# 青年海外協力隊は 何をもたらしたか

開発協力とグローバル人材育成50年の成果

岡部 恭宜 [編著]



Japan Overseas Cooperation Volunteers

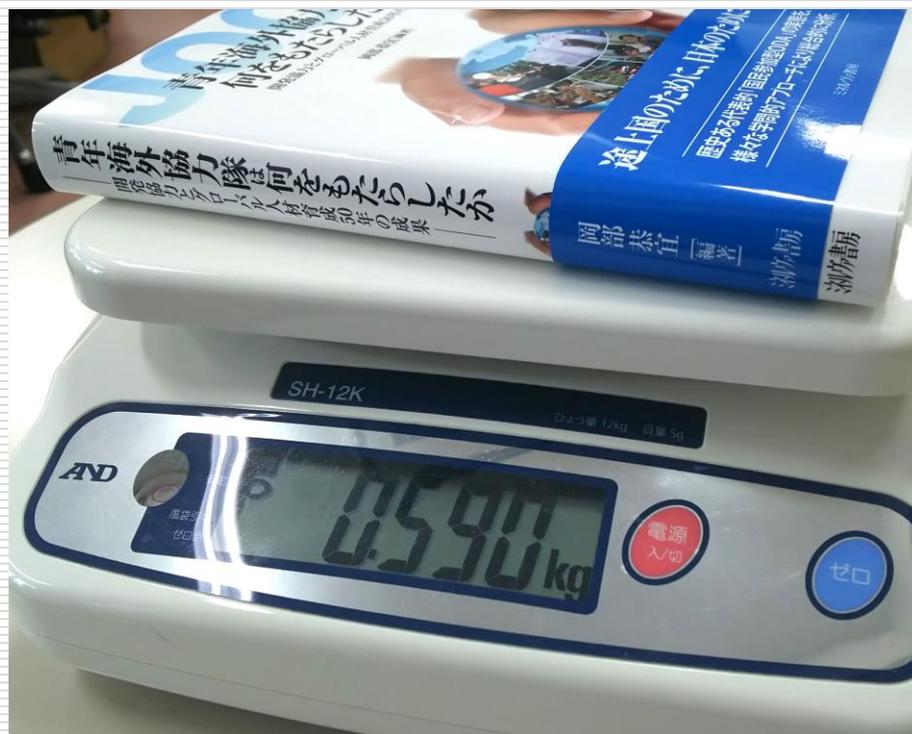
ミネルヴァ書房



# JAPAN

Official Development Assistance

厚さ2.3cm、重さ590g、336頁、14章



# 本書が大部になったわけ

- 協力隊の様々な側面を分析したから
  - \* 歴史、組織・制度、事業目的（開発協力、青年育成）、国際比較
- 政治学、社会学、経済学、人類学、心理学、経営学等
- 定性分析、定量分析
  - \* 説明、因果関係、解釈、提言
- 一次資料、数量データ、聞き取り、参与観察
  - \* 意識調査（2011-15年、1,500人以上、時系列）

# 「様々な側面」＝本書の構成

【配付資料「目次」,「序章」7-14頁】

- 第Ⅰ部 歴史と制度・組織（マクロ）
- 第Ⅱ部 隊員は何をしたか—開発協力の担い手
- 第Ⅲ部 隊員について知る—人材育成の成果  
（以上、ミクロ）
- 第Ⅳ部 国際比較（比較）

「協力隊は何をもたらしたか？」→ 直接・間接に回答

# 9つのコラム

## 【配付資料「目次」】

- 各章の補完
- コラムのみのテーマ
  - \* 障害と開発
  - \* ブラジルでの野球指導
  - \* エルサルバドルでの考古学調査
  - \* エチオピアの天然痘撲滅計画
  - \* シリアにおけるパレスチナ難民

# 開発協力と人材(青年)育成における成果

【配付資料「終章」304-308頁】

- 開発協力と青年育成の目的共存 … 自民党・青年団体・外務省の妥協の産物（第1章）
- 事業目的の多様性と政府主導はアジアの特徴。欧米は開発協力に傾注、NGOも（第10章）

# 開発協力における成果

- 双方向的、連鎖的な因果関係、プロセス分析
- CDのための触媒の役割（第4章）
- ソーシャル・キャピタルの醸成（第5章）
- バングラデシュ初等教育の向上。教員に考えさせる姿勢（第6章）
- 専門性の弱い隊員を補完し、レバレッジを与える現地事務所（第2章）
- 「弱い専門性の強さ」

# 人材育成における成果

- 人類学・心理学。定性・定量分析
- 動機・属性・価値観等から隊員を6つに類型化（第7章）
- 太平洋島嶼地域の隊員の落胆と人間的成長。価値観変化、現地住民の記憶（第8章）
- 「めげずに頑張り続ける力」を発揮できる要因。性格、相談相手、ストレス、信頼（第9章）
- 大学生の短期派遣も人材育成に効果。短期ならではの長所も（第3章）

# 開発協力における課題と提言

【配付資料「終章」308-313頁】

- 隊員の情報アクセスの強化
- 隊員を巡るネットワーク形成
  - \* 隊員勉強会、現地事務所内の連携、クラスター化(第2章)
  - \* 日本側諸機関の連携(第4章)、心への働きかけ(第5章)
- 派遣の継続性の維持
  - \* 短期隊員による中継ぎ(第2章)、派遣時期の調整(第12章)
- 自助努力の促進のあり方
  - \* 当事者意識(第4章、第6章)、自信や喜びの促進(第5章)

# 人材育成における課題と提言

- 異なる類型の隊員に対する選考・訓練・支援
  - \* 貢献実感のある配属先に「慈善志向」型を採用(第7章)
- めげずに頑張り続けるために
  - \* 調整員との面談の定期化、隊員間の経験共有(第9章)
  - \* 短期隊員の活動期間(手続簡略化、目標明確化)(第3章)
- 人間的成長のために
  - \* 「地域の特性を受容 → 成長」という視覚(第8章)
- 支援や改善は人材育成・成長を妨げる？
  - \* 挫折の可能性は常在 → 自ら克服できるようなタイミングで

# 国際比較からの示唆

- アジア型事業の登場？
  - \* 「開発協力＋人材育成」、「政府主導」の特徴を世界にアピール(第10章)
- 米国平和部隊の独立性と非政治性
  - \* 同じ政府事業ゆえ対外関係や任国世論の影響？(第11章)
- 英国VSOの三者システム
  - \* 現地NGOやボランティアとの協働の制度化(第12章)

## 協力隊のあるべき方向性（終章より）

- 協力隊は持続可能な開発のための有効な手段。今後も継続が望ましい。
- 人材育成は今後も重要な成果であり続ける。
- 政府・JICAは訓練、情報提供、ネットワーク形成、他の事業との連携で支援を提供すべき。
- 支援のあり方は、隊員の苦労が人間的成長や能力向上に繋がるタイミングや規模で。
- 隊員の活動の効果を質的・量的に研究する必要。

## \*\*\* 終わりに \*\*\*

- このセミナーにご参加された方に2割引価格で本書を販売します。
- 1. 岡部より実物を販売（部数僅少）
- 2. お手元のチラシが購入申込書になっています（但し送料自己負担）。ご希望の方は必要事項を記入して、アンケートとともに提出して下さい。後日、ミネルヴァ書房より書籍をお送りします。